

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第4巻第45号

第45週(11月1日～11月7日)

発行年月日:平成16年(2004年)11月12日

発行:滋賀県立衛生環境センター内  
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

### 1) 全数報告の感染症(1類～5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (45週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀 (45週)	全国 (45週)	滋賀	全国 <sup>(*)1</sup>
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	9	514	7	459
	腸チフス	0	2	60	0	60
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	21	3,388	8	2,635
4類感染症	E型肝炎 <sup>(*)2</sup>	0	1	25		
	オウム病	0	1	39	1	44
	ツツガムシ病	0	0	114	2	380
	デング熱	0	2	43	0	31
	マラリア	0	1	62	0	77
	レジオネラ症	0	0	130	1	143
5類感染症	アメーバ赤痢	0	8	500	3	504
	ウイルス性肝炎	0	2	256	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	142	3	115
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	49	0	52
	後天性免疫不全症候群	0	5	971	8	949
	ジアルジア症	0	1	75	0	99
	梅毒	0	3	429	2	493
	破傷風	0	2	88	1	69
	急性脳炎	0	0	97	0	98

\*1:平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

\*2: " 感染症法の改正前のためE型肝炎のみの集計はされていません。

### 2) 定点把握の対象となる5類感染症

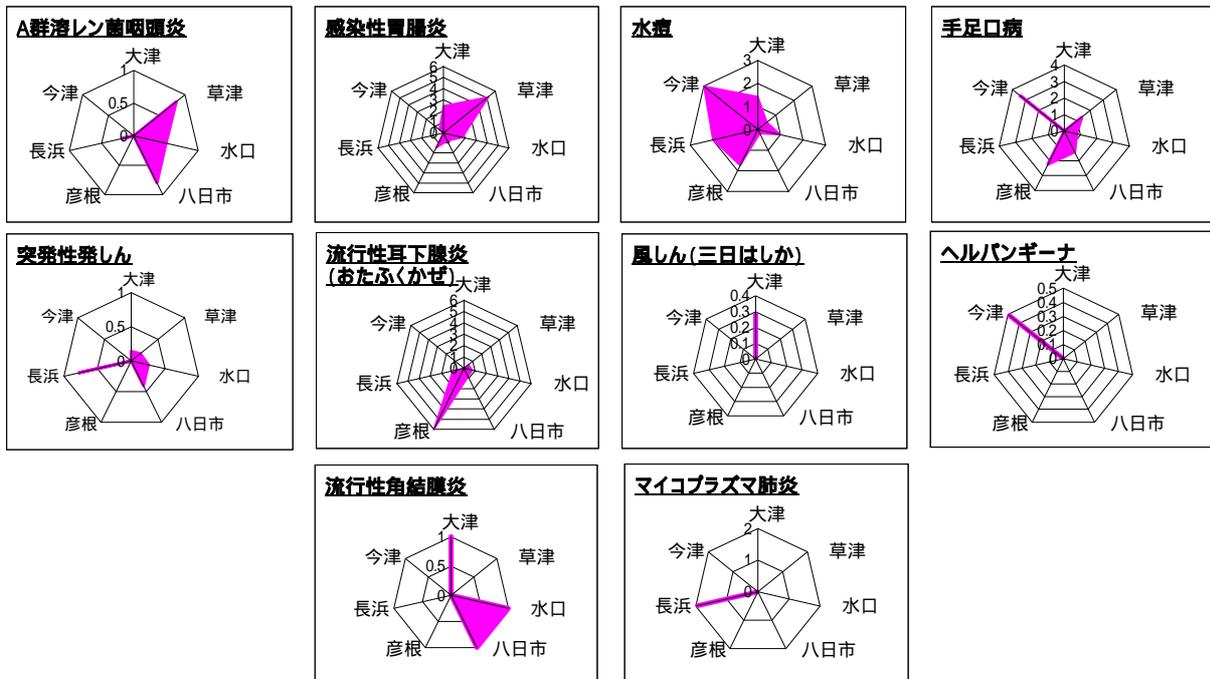
#### (1) 疾病別・週別発生状況(第40～45週、9/27～11/7)

疾患名	定点当たり患者数 ( 前週より増加 前週と同じ 前週より減少)										
	40週						週				
	(9/27～)	(10/4～)	(10/11～)	(10/18～)	(10/25～)	(11/1～)	41	42	43	44	45
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0					
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0					
咽頭結膜熱	0.36	0.58	0.36	0.03	0	0					
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.18	0.21	0.15	0.52	0.09	0.36					
感染性胃腸炎	1.79	1.88	1.70	1.39	1.94	2.00					
水痘	0.45	0.70	0.52	0.79	0.52	1.24					
手足口病	0.67	0.82	0.73	1.15	1.09	1.03					
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.06	0.09	0.06	0	0.15	0					
突発性発しん	0.76	0.97	0.70	0.70	0.27	0.27					
百日咳	0	0	0	0	0	0					
風しん(三日はしか)	0	0	0.06	0.03	0	0.06					
ヘルパンギーナ	0.27	0.06	0.09	0	0	0.03					
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0					
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.97	0.58	0.76	0.85	0.76	1.18					
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0					
流行性角結膜炎	0	0.14	0	0	0.43	0.43					
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.14	0					
無菌性髄膜炎	0.29	0	0.14	0.14	0	0					
マイコプラズマ肺炎	0	0.29	0.29	0.43	0.29	0.29					
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0					
成人麻しん	0	0	0	0	0	0					

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第45週、11/1～11/7)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.36	0	0.83	0.50	0.80	0	0.20	0
感染性胃腸炎	2.00	2.43	5.17	1.75	0.80	1.50	0	0.50
水痘	1.24	1.43	0.50	1.00	0.20	1.75	2.00	3.00
手足口病	1.03	0	1.33	0.75	1.40	2.25	0	3.50
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発しん	0.27	0.14	0.17	0.25	0.40	0	0.80	0
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0.06	0.29	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0.03	0	0	0	0	0	0	0.50
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.18	0	0.50	0.75	0.80	6.00	1.00	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.43	1.00	0	1.00	1.00	0	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	0.29	0	0	0	0	0	2.00	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。感染性胃腸炎については先週と同様に大津および草津で多くなっていますが、今週は彦根においても増加しています。手足口病については先週よりやや少なくなっていますが、今津ではかなり多くなっています。また、突発性発しんについては先週と大きな違いはみられませんが、八日市および長浜でやや多くなっています。風しん(三日はしか)については今週は大津から報告があり第1～45週の県全体の報告数は昨年より多くなっています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といいます。

\* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

\* 疾患により定点数は異なります。

### 3) 今週のトピックス

#### 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の発生は昨年同時期より増加

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(10月25日～10月31日)の報告数よりかなり多くなっており、特に流行性耳下腺炎および水痘において著しい増加を示しています。また、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎等についても増加がみられます(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフを参照)。

**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**については、先週の定点当たり患者数0.09より増加し0.36となっています。大津保健所管内では減少していますが、草津、水口、八日市保健所管内等でやや多くなっています。

**水痘**については、各保健所管内における定点当たり患者数は先週よりかなり増加しており、昨年の同時期とほぼ同様の発生状況となっています。冬季に増加することが考えられますので今後の発生動向に注意する必要があります。

**流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)**については、先週の定点当たり患者数0.76より増加し1.18となっています。特に、彦根保健所管内においては先週の定点当たり患者数3.75よりさらに増加し6.00となっており、草津、水口および八日市保健所管内においても増加しています。また、昨年の同時期の定点当たり患者数0.38より非常に多くなっています。今後の彦根保健所管内の発生動向に注意することが必要です。

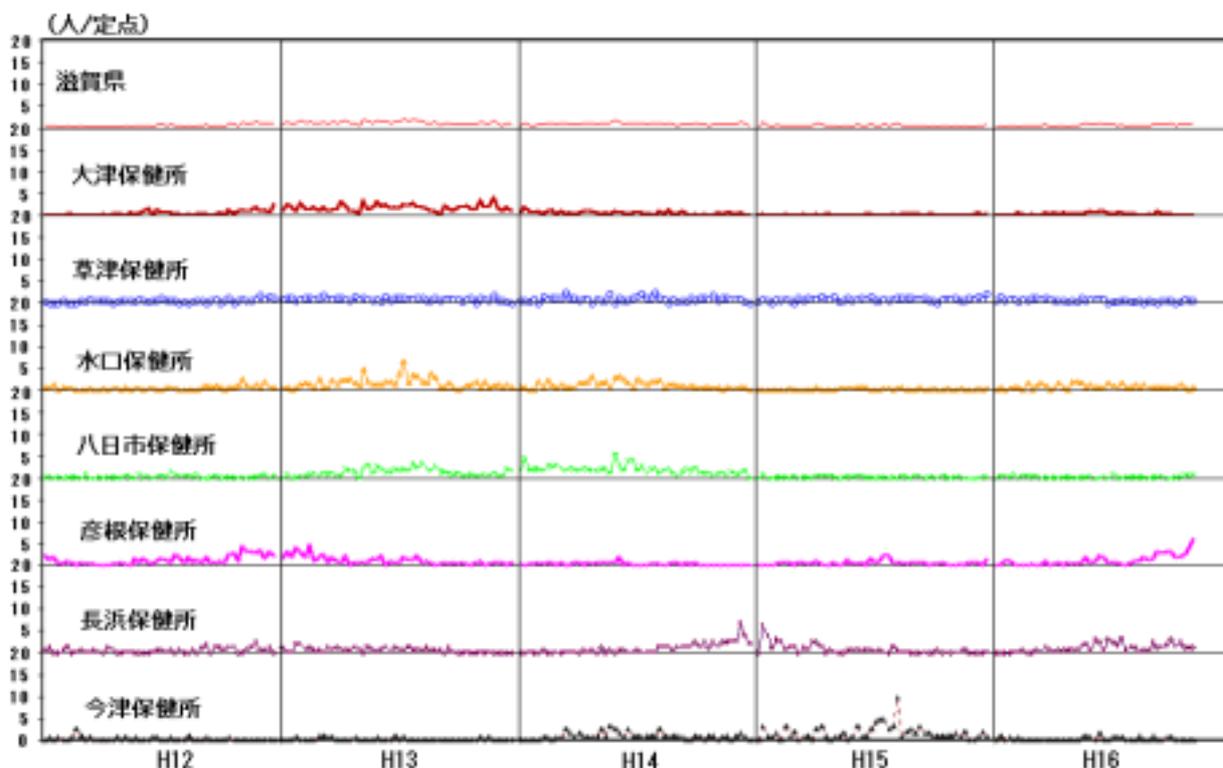
#### 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の保健所管内別発生状況

(平成12年第1週～平成16年第45週、H12.1.3～H16.11.7)

平成12年から平成16年の発生状況についてみると、平成15年は彦根、長浜および今津保健所管内において他の保健所管内より多く発生しており、平成16年は水口、彦根および長浜保健所管内において多く発生しています。特に平成16年については彦根保健所管内における増加が著しくなっています。また、平成15年および16年の年齢別発生割合についてみると各年齢層において大きな違いはみられませんが、2歳における発生割合は平成15年が全体の7.9%、平成16年が全体の10.1%とやや増加しています。4歳における発生割合は平成15年が全体の19.3%、平成16年が全体の17.1%とやや減少しています。

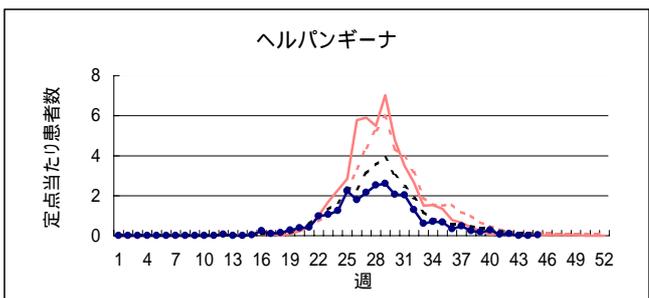
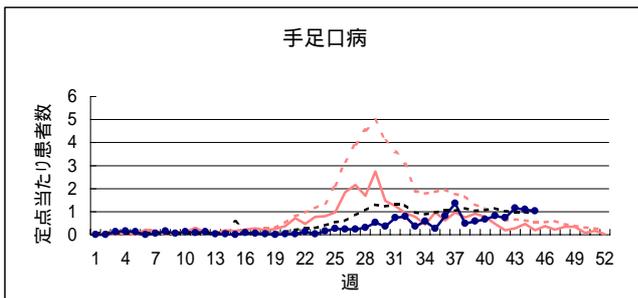
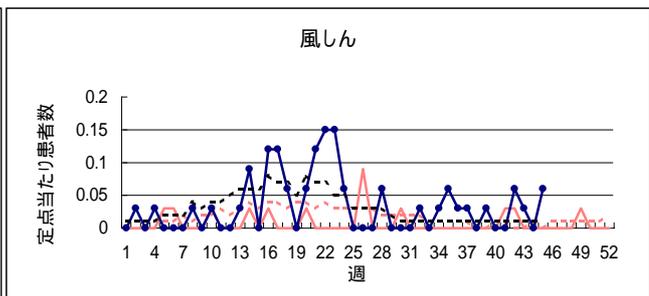
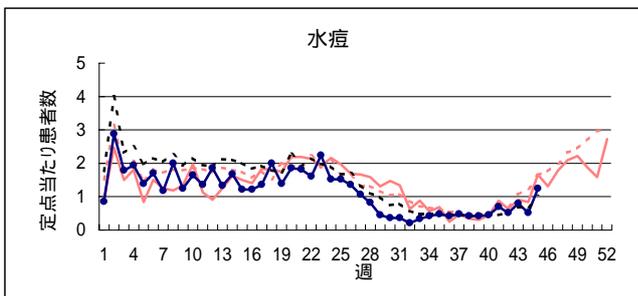
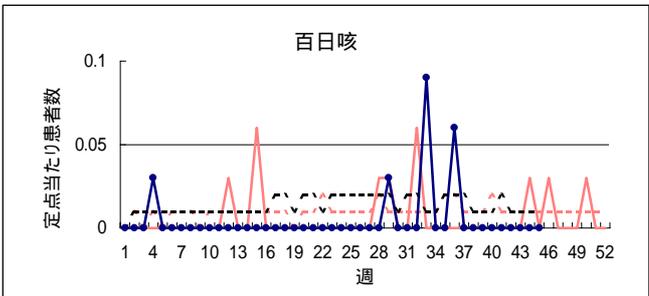
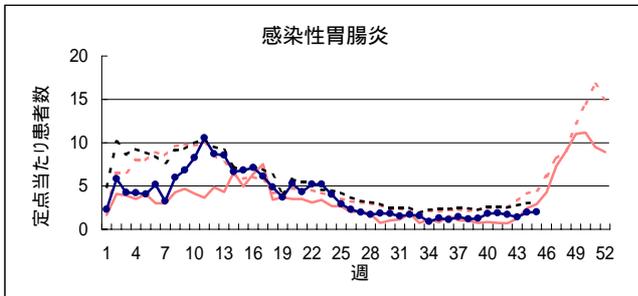
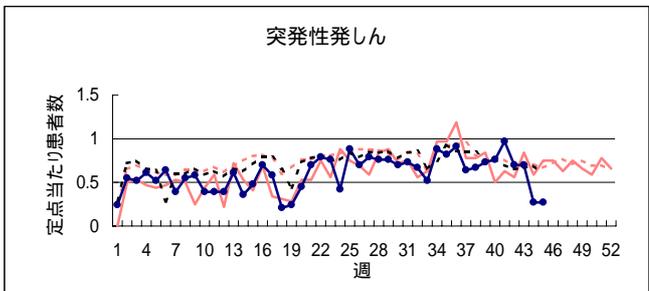
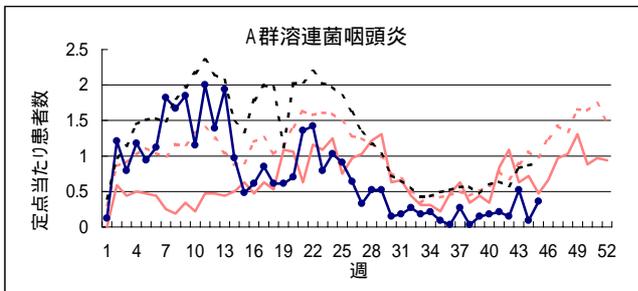
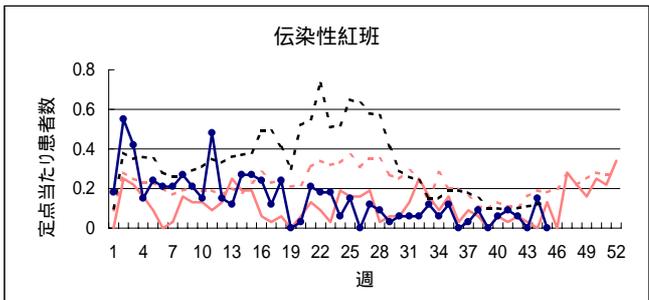
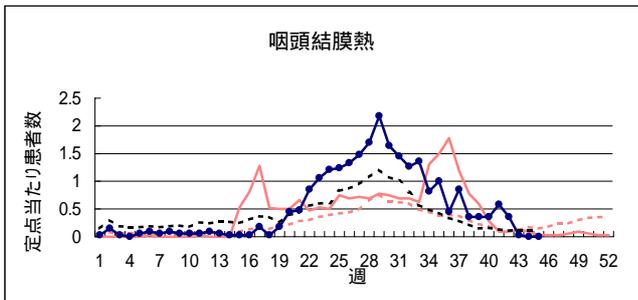
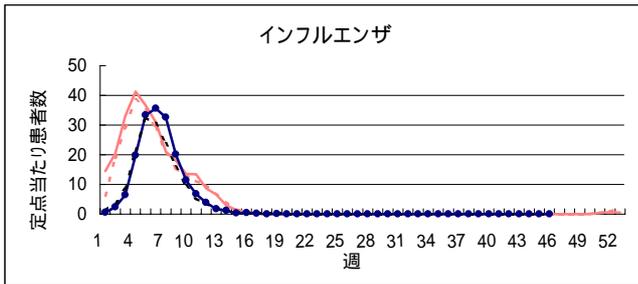
流行性耳下腺炎年齢別発生割合 (H15:第1～45週、H16:第1～45週) (%)

	12か月未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上
H15	1.1	5.9	7.9	13.4	19.3	15.6	12.0	9.9	4.3	3.0	5.1	0.3	2.3
H16	0.3	5.6	10.1	14.0	17.1	15.8	10.7	10.0	5.1	3.6	5.4	0.2	1.9



全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ** (<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>)において公表されています。

# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第45週、H15.12.29～H16.11.7)



# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第45週、H15.12.29～H16.11.7)

H15 〔 滋賀 ———— 全国 ..... 〕  
 H16 〔 滋賀 —●—●— 全国 ..... 〕

